



地球、そして子ども達の未来のために

エプロン通信員 末吉郁子

「リオの伝説のスピーチ」をご存知でしょうか。

92年、ブラジルで行われた国連の地球環境サミットに向けてカナダから12〜13歳の子供達が世界を変えるため、自分達で費用を貯め、1万キロの旅をしました。リーダーの少女の名はセヴァン・カリス・スズキ。

「私が環境運動をしているのは私自身の未来のため。オゾン層に穴があき、空気には毒が混じり始め、絶滅していく動植物たち。こんな大変なことがものすごい勢いで起こっているのに私たち人間ときたらまるでのんきな顔をしている。オゾンの穴のふさぎ方、絶滅した動植物の生き返らせ方。あなたたち大人は知らないでしょう・・・」

もう壊し続けるのはやめてください。学校であなたたち大人は子供に世の中でどう振る舞うか教えてくれます。争わないこと、話し合いで解決すること、生き物を傷つけないこと、分かち合うことを教えてくれます。ならばなぜあなたたちは私たちにするなということをしているのですか。私たちが愛しているということのならばどうかその言葉が本当だということを行動で示してください。」(抜粋)

私たちの生活で何が問題なのでしょう。例えばゴミを焼却するのに多くのエネルギーを要します。車に乗ることで排気ガスを出し、気温が上がります。地球が温暖化することで海面が上昇し、ベ

ネチアなどの美しい島は浸水に見舞われ、アラスカの島ではもうすでに2割の島民が家屋を失ってしまいました。

それでは具体的にどんなことができるでしょうか。宜野湾市役所ではダイオキシシン吸着フィルム(※)で包装されたトイレットペーパーを使っていて、これはスパーで買うことができます。生ゴミの水気を切る台所グッズ、洗濯層や河川を浄化する洗剤など、私たちは商品を選ぶことができます。車やバイクを休め、徒歩や自転車してみるなど、たくさん改善もできるでしょう。

人も自然の生き物、汚れた水や空気が体に入れば心も体もダメになっていきます。地球のダメージは人のダメージでもあるのです。

たった今からあなたにできることがあると思います。

かわいい子ども達に青い海と空を残したいと思いませんか。

(※)焼却時に周りで発生するダイオキシシンを吸収する。



茶 ぐわーゆんだく

81

新年の目標は!?

「一年の計は元旦にあり」みなさんはどのような目標を立てましたか?

1967(昭和42)年1月1日、宜野湾市は「時間励行」をきっかけ、実施しました。

そもそも、64(昭和39)年の「健康都市宣言」

の実践活動に「時間励行」があげられていま

したが、実行が伴って

いかなかった

ために、66(昭和41)年12月28

日に、当時の島袋全一市長を会長

とし、市内の団体代表によって「宜野湾市時間を守る推進協議会」が

結成されました。沖縄タイム(※①)の

一掃を目指して、市主催の諸行事は

定刻に開始し、さらに協力依頼の

チラシを1万5千部作り、周知に努めました。

『市報ぎのわん』にも連続で掲載



▲健康都市ぎのわん (宜野湾市役所・正面)

また、『沖縄タイムス』の66年12月29日と翌年1月27日に、この宜野湾市の「時間を守る運動」についての記事が掲載され、「市の行事はかきり定刻。市議会も定刻開会で、市民に模範を示した」とされています。

新年を迎え、改めて時間の使い方について考えてみたいものです。また、卯年でもありますし、「ウサギの登り坂」という諺のように、何事にも良い方に速やかに進むよう、しっかり目標を立て、躍動ある年にしたいですね。



※①沖縄タイム：沖縄ののんびりした時間観念。

※②『市報ぎのわん』1964年1月号、6月号(第84号〜89号)に掲載。5月号(第88号)掲載なし。



▲『市報ぎのわん』のタイトル(2・3月号)

「宜野湾市史」への問い合わせ
教育委員会 文化課 ☎893-4430